



中谷外科病院広報誌

Vol. 47

2019年4月発行



くまのみ 通信

医療法人 吉備会 中谷外科病院
〒706-0001 岡山県玉野市田井3-1-20
TEL 0863-31-2323
FAX 0863-31-8486
<http://www.nakatani-hosp.jp/>

新年度のご挨拶



陽春の候、新たな年度を迎え皆様方におかれましては益々ご健勝のことと存じます。当院広報誌「くまのみ通信」の場をかりまして、日頃からのご愛顧に心より感謝申し上げます。

昨年度は今まで経験したことのない自然災害で多くの人命が奪われました。未だに多くの人たちが仮設住宅で生活され、私たちの心にも未だ癒やしきれない傷跡が残っています。今年度が平和で穏やかな日々が続くよう祈るとともに、今回の災害の経験を活かして日頃からの防災対策にしっかりと取り組んでいこうと決意を新たにしているところです。

さて、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年を控え、少子高齢化が急速に進んでいます。重度要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される社会となるため「地域包括ケアシステム」の確立が急がれるところです。

今年度当院は以下に示すように地域医療、専門医療という二つの柱を益々強化していく所存ですので、引き続き叱咤激励のほどよろしくお願いいたします。

- 1) 大学や基幹病院、地域の診療所、また関連施設である「いこい荘」など介護福祉施設との連携を深め、患者様が安心して在宅で過ごせるよう支援すること。
- 2) 消化器内視鏡、大腸肛門病の専門病院として胃腸やお尻の病気で悩まれる患者様に最新・最善の医療を提供すること。

来る「令和」が皆様方にとり平和で充実した日々となりますよう祈念し、私の新年度の挨拶とさせていただきます。

平成31年4月吉日

中谷外科病院 院長 中谷 紳



(職員の皆さんに還暦祝いをいただきました)

第12回 院内研究発表会（平成31年2月23日（土））

題 名	講 評（岡山大学病院 藤 智和医師）
病棟A 『 癌終末期患者へのエンド オブライフケアの実践 』	今後も急増する末期患者を受け入れて、患者の希望に合わせた看取りを 実践していければ需要は大きいと思われます。
患者サービス向上委員会 『 退院時アンケート 5年間のまとめと評価 』	実際に患者とのトラブルの多くは医師を含めた医療者の説明不足から生 じており、このスクリーニングによってそのような不満の拾い上げや対応が 可能と思われます。コメントに【時間】の記載が多い点は興味深く、今後は 待ち時間や開始時間を事前に説明しておくなどの対応で更なる患者満 足度の向上も見込めます。
事務部 『 BCPの必要性について 』	どれだけ準備やマニュアル策定をしても、災害時にはすべての職員が自 分で考えて動かないといけない点を強調していた事も大変よかったと思ひ ます。
医療安全委員会 『 BCPの策定について 』	電話連絡はできない可能性がある事、特定のメンバーに役割を集中させ すぎて『指示待ち』にならないようにしておく事、医療行為よりも事務作業 の方が災害に弱いので紙の運用も定めておく事等が望ましいと思われま す。
病棟B 『 肝硬変の終末期患者へ の関わり 』	患者が最後の入院先として当院を選んだ事、家族が感謝をしてくれてい た事が最大のアウトカムであったのではないのでしょうか。
外来 『 患者様に採血結果を 伝える 』	今後も患者満足度面だけでなく、採血結果の説明を通じて地域住民の 健康意識向上に寄与する事は外来看護師の業務としても重要と思われ ます。
褥瘡委員会 『 当院におけるスキンテア 予防の取り組み 』	特に終末期患者では浮腫、低栄養により皮膚裂傷リスクが高く、一方で 家族にとっては最後まできれいな肌でいるように努めてもらえた事は大き な満足になると思われ、今後も継続していただきたい取組と感じました。

院長基調講演 『 当院における大腸内視鏡検査の現況 』

岡山大学病院 藤智和医師の講評・総評をいただく機会に恵まれ、非常に内容の濃い発表会であった。
講評では上記の様に発表チームすべてに的確な分析と評価を頂いた。

総評は当院の地域医療に果たすべき役割として『病診連携』の必要性
を挙げられた。①基幹病院との連携 ②施設、在宅との連携、そして
『連携とコミュニケーション』では顔がみえる関係をもつことの大切さを提案頂き、
客観的でなおかつ適切なご指摘に感謝したいと思います。

（看護師長 新田 照美）



院内感染委員会 研修会（グループワーク）

マスクの使用例等について6グループに割り当て、問題点と対策を話し合い、全体発表。30分間の時間内でのグループワークはタイトなスケジュールであったが、参加者全員が始終和やかに取り組むことができました。

（院内感染委員会 看護師 近藤 麻美）

①マスクはいつ交換するの？

②マスクのひだは上向き？下向き？



特に医療介護従事者はマスクをすることで表情が隠れたり、声が聞こえづらく相手を不安にさせてしまうため、気をつけましょう！！

* 答えはこのページの下にあります

平成31年3月～

「がん病態栄養専門管理栄養士」 認定されました！！

この度日本病態栄養学会・日本栄養士会認定がん病態栄養専門管理栄養士として認定されました。

がん罹患すると、疾患そのものによる影響や、手術や放射線治療、抗がん剤治療に伴うもの、精神的な苦痛などによってしばしば食事をとることが困難な状態となります。

当院ではベッドサイドで患者様一人一人の不安や苦痛を聞き取り、より食べやすく栄養価の高い食事ができるよう工夫しています。気軽にご相談頂ければ幸いです。

（管理栄養士 松本 英子）

★ 院内デイ『めばるん』OPEN ★

患者様の離床と認知症予防のため毎週火・木の14:30～15:00の約30分間 1階外来にて院内デイを行っています。体操、歌、レクレーションや製作を患者様、スタッフと一緒に楽しんでいます。（デイリーダー 看護師 岩崎 恵美子）



薬のシートを1個ずつ切り離す？

皆さんは、薬局で受け取ったお薬を家に持って帰って、どうやって保管していますか？

薬の袋にまとめて入れておく人。切り離したシートを「お薬整理ケース」に1回分ずつ入れておく人。などなど多くの薬を間違えず飲めるように・・・と、1個ずつ切り分けて1回分ずつまとめておくのは良いことに思えます。では皆さん、1個ずつ切り分けた錠剤のシートからお薬を取り出してみてください。小さく切られたシートの突起を押し込んで、反対側からお薬を取り出すのは意外と大変でしょう？手先が不自由なお年寄りならなおさらです。また目も不自由な方だと、小さく切られた見かけそっくりなシートは区別が付きにくいものです。さらに、取り出し損なったシート入りの錠剤を飲んでしまい、胃壁が傷だらけになった・・・という事故もしばしば起きています。（激痛です！）

お薬を正しく飲むために1回分ずつまとめる必要を感じたら、迷わず『お薬の一包化（1回分ずつ包むこと）をお願いします』とお医者さんに言って下さい。

お渡しするお薬を正しく飲んでいただくことが全ての薬剤師の願いです。（薬剤師 赤松 由紀子）



【マスク使用の答え】

- ①外した時点で交換して下さい。最低午前・午後1枚ずつは交換して下さい。
- ②付着した菌やウイルスが落ちやすいように下向きにして下さい。

てんとうよぼう

やってみよう!

お出かけの増える季節がやってきました。足腰を鍛え、転ばない体づくりをしませんか？

1 膝伸ばし運動

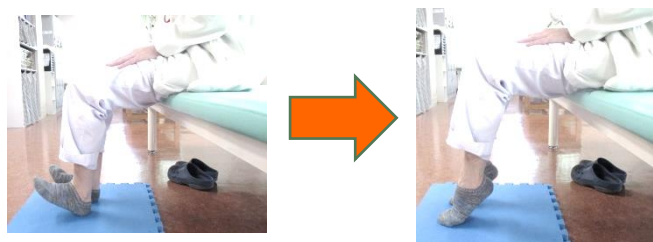
左右交互に、体が後ろにそらないように
気をつけながら膝を伸ばす。(各10回)



- ☆ ゆっくりとしたペースで少しずつ回数を増やしましょう。
- ☆ 痛みの出ない範囲で無理せず行いましょう。

2 爪先、かかとの上げ下げ運動

かかとを床につけ爪先を上げ下ろす。次に爪先を
つけて、かかとを上げ下ろす。(各10回)



(理学療法士 皆木 ひかる)

外来診療表(平成31年4月～)

★ 外来診療時間

月～金 9:00 ～ 12:00 15:30 ～ 18:30
土 9:00 ～ 12:00

	月	火	水	木	金	土
午前	中谷 亨 中谷 紳 三村 直樹	中谷 亨 中谷 紳	中谷 亨 中谷 紳 石川 隆	中谷 亨 中谷 紳 西 英行 鈴木 健夫	中谷 亨 中谷 紳	中谷 亨 西 英行 畑 七々子
午後	三村 直樹	中谷 紳	中谷 紳	中谷 紳	岡 凌也	休診

ひ と り ご と

元号が平成から令和に変わります。平成を振り返ると、様々な出来事がありました。地下鉄サリン事件、阪神大震災、アメリカ同時多発テロ、東日本大震災など大きな事件や災害に見舞われた時代でした。しかし、Jリーグ開幕、長野オリンピック開催、東京スカイツリー開業など人々に元気を与える出来事もたくさんありました。

「令和」はどんな時代になるでしょう？2020年には東京オリンピック開催も控えています。元気な時代になって欲しいと願っています。そのためには、1人1人が前を向き笑顔でいなくては元気な時代は作れないと思います。

ワクワクする新しい時代のスタートです！みなさんは、どんな時代を作りたいですか？

(事務 池内 良子)

【 中谷外科病院 基本理念 】

患者様とともに歩む

【 基本方針 】

- I：常に患者様の立場にたち、行動する。
- I：消化器内視鏡、大腸肛門病の専門病院として最新・最善の医療を提供する。
- I：多職種間によるチーム医療の充実をはかる。
- I：在宅復帰を支援し、地域に開かれた医療を行う。
- I：職員同士の和を重視し、思いやりのある医療を実践する。